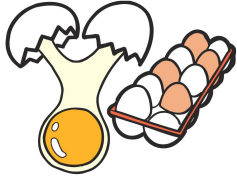





# 5.会津若松市の追加的内部被ばく

## ■食物の放射性物質濃度の状況

品目	検査結果（10月）	検出下限
水	N D（検出せず）	1～5Bq/kg
米	N D（検出せず）	5～15Bq/kg
そば	N D（検出せず）～13Bq/kg	
その他穀類	N D（検出せず）	
いも類	N D（検出せず）	
豆類	N D（検出せず）	
野菜	N D（検出せず）～17Bq/kg	
果物	N D（検出せず）～10Bq/kg	
肉類	N D（検出せず）	
鶏卵	N D（検出せず）	
牛乳及び乳製品	N D（検出せず）	
魚介類	37Bq/kg	
きのこ類	N D（検出せず）～26Bq/kg	

## ■追加的影響の試算（年間）

### 【前提条件】

- ・ 農産物や水道水の緊急時モニタリング検査の結果から、食物による追加的内部被ばくの影響を試算
- ・ 食物は市内で採れるものは市内のものを食べる
- ・ 1日の摂取量は平成22年度食糧需給表（農林水産省）を参考に設定。水は1日1.5リットルと想定
- ・ 放射性物質の濃度は本市の現状から次のとおり最大値で想定
  - 〔水道水〕…検出下限の5Bq/kgと想定
  - 〔N Dか15Bq/kg以下の農産物〕…検出下限の15Bq/kgと想定
  - 〔15Bq/kg以上の農産物〕…検出された最大値と想定
- ・ セシウム137と134は半減期が長いセシウム137にまとめて試算

項目	放射性物質濃度 (Bq/kg)	1日の摂取量 (g)	日数 (日)	年間摂取量 (Bq)	実効線量係数 (mSv/Bq)	年間被ばく量 (mSv)
米	15	163	365	892.43	0.000013	0.0116
そば	15	1.6	365	8.76	0.000013	0.0001
その他穀類	15	91.3	365	499.87	0.000013	0.0065
いも類	15	50.8	365	278.13	0.000013	0.0036
でんぷん	15	45.6	365	249.66	0.000013	0.0032
豆類	15	23.1	365	126.47	0.000013	0.0016
野菜	17	241.9	365	1500.99	0.000013	0.0195
果物	15	100	365	547.5	0.000013	0.0071
肉類	15	79.8	365	436.91	0.000013	0.0057
鶏卵	15	45.5	365	249.11	0.000013	0.0032
牛乳及び乳製品	15	236.7	365	1295.93	0.000013	0.0168
魚介類	37	81.2	365	1096.61	0.000013	0.0143
海藻類	0	2.7	365	0	0.000013	0.0000
砂糖類	0	51.9	365	0	0.000013	0.0000
油脂類	0	36.9	365	0	0.000013	0.0000
みそ	0	9.9	365	0	0.000013	0.0000
しょうゆ	0	17.7	365	0	0.000013	0.0000
きのこ類	26	9.3	365	88.26	0.000013	0.0011
その他食料	0	3.3	365	0	0.000013	0.0000
水	5	1500	365	2737.5	0.000013	0.0356
合計		2792.2		10008.12		0.1301

※実効線量係数（経口摂取）…ICRPのデータをもとに放射線医学総合研究所が編集

※放射性物質濃度は、試算のための最大値での想定で、実際の結果とは異なります

## ■追加的内部被ばくの基準、目安

基準	評価値	本市の現状の評価
通常の一一般生活において受ける放射線量を除いた放射性物質の生涯における累積の実効線量 (食品安全委員会の食品健康影響評価)	生涯 100mSv ○人生 80年 →年間 1.25mSv ○人生 100年 →年間 1.00mSv	<b>内部被ばく線量限度の約7～9分の1</b>

※ 食品からの放射性物質の摂取と外部被ばくとの関係については、当面は、外部被ばくは著しく増大しないことを前提として検討。

監修：市放射線管理アドバイザー下道國先生（原子力安全委員会「放射線防護専門部会」専門委員）